

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成26年4月22日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立北中小学校 第6学年，全児童

実施児童数（85人）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語及び算数。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査（以下「児童アンケート調査」という。）を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査（以下「学校アンケート調査」という。）を実施する。

平成26年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じ状況であるが、全国と比べて上位層が少ない。
平均正答率（本校 68.9／泉佐野市 70.3／大阪府 70.7／全国 72.9）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国とほぼ同じ状況にあるが、全国と比べて上位層がやや少なく下位層がやや多く分布している。
平均正答率（本校 49.8／泉佐野市 51.9／大阪府 52.6／全国 55.5）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語A	特徴がみられた設問
<p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】</p> <p>○学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことは、出題された漢字によって正答率に差があるものの概ねできている。</p> <p>1ー（1）道路の<u>標識</u>を見る（→ひょうしき） (92.9/91.7)</p> <p>1ー（2）街灯がつく（→がいとう）(80.0/87.0)</p> <p>○故事成語の意味と使い方を理解することの正答率は、全国より10.1%上回っている。</p> <p>2ー 五十歩百歩(65.9/55.8)</p> <p>2二 百聞は一見にしかず(60.0/49.9)</p> <p>【書くこと】</p> <p>○情景描写の効果を捉えることに課題がある。</p> <p>3 情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する。(40.0/58.7)</p> <p>○複数の事柄を並列の関係で書くことに課題がある。</p> <p>6一 「～たり、…たり」という表現に直して書く。(64.7/74.9)</p>	<p>○仮定の表現として、適切なものを捉えることに課題がある。</p> <p>6二 文の意味のつながりを捉え、適切なものを選択する。(75.3/83.1)</p> <p>【読む力】</p> <p>○新聞の投書を読み、表現の仕方を捉えることに課題がある。</p> <p>4 新聞の投書を読み、表現の仕方として、適切なものを選択する。(60.0/71.7)</p> <p>○物語の登場人物の相互関係を捉えることに課題がある。</p> <p>5 物語の一部に入る適切な人物の名前を書く。(56.5/65.39)</p> <p>【話すこと・聞くこと】</p> <p>○話し合いの観点に基づいて情報を関係付けることに課題がある。</p> <p>7 話し合いの記録の仕方として適切なものを選択する。(60.0/72.4)</p>

国語B	特徴がみられた設問
<p>【話すこと・聞くこと】【書くこと】</p> <p>○「 」を使って引用し、さらに決められた字数で書くことに課題がある。</p> <p>1三 大野さん②の発言に対し、手書きの立場から質問か意見を書く。(22.4/28.3)</p> <p>【書くこと】【読むこと】</p> <p>○複数の付箋を整理し、条件に合わせて文章を書くことに課題がある。</p> <p>2三 付箋の内容を関係付けて、野口さんのまとめを書く。(20.0/26.9)</p>	<p>【読むこと】</p> <p>○目次や索引の見方に課題がある。</p> <p>2三 疑問を解決するために、目次や索引の中から必要となるページの番号を書く。(57.6/66.0)</p> <p>【書くこと】【読むこと】</p> <p>○2つの詩を比べて読み、条件に合わせて適切に自分の考えを書くことに課題がある。</p> <p>3三 【詩1】と【詩2】を比べて読んで考えたことを書く。(31.8/48.1)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか	40.0	59.2	○	19.2
国語の勉強は大切だと思いますか	87.0	91.8		4.8
国語の授業の内容はよく分かりますか	72.9	80.1	◇	7.2
読書は好きですか	50.6	73.0	○	22.4
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	85.9	87.4		1.5
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	50.6	61.4	○	10.8
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか	51.7	58.5	◇	6.8
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか	63.5	70.7	◇	7.2
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめごとに内容を理解しながら読んでいますか	75.3	75.8		0.5
今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、最後まで努力しましたか	70.6	76.1	◇	5.5

【考察】

- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、全国平均とほぼ同じである。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は、全国平均を大きく下回っている。
- 無答率は、全国平均より低く、学力テストに対して意欲的な態度が見られる。しかし、記述式の問題（短答式）で5.9%、9.4%と高くなる傾向がある。
- 題意が読み取れず、正答の条件を1つも満たしていない回答率が全国平均より高い。
- 読みとりの問題で、物語の一文は最後まで読んではいるが、設問の問題文を最後までしっかり読まずに解答しているように思われる。一つひとつの言葉をていねいに読み最後までしっかり読む習慣をつけることが大切だと考える。
- 上下や左右で文を比べながら、共通点や相違点を考えることに課題がある。
- 領域【書くこと】が、全国平均と比べて9.7ポイント下回っている。
- 国語Bの問題では、途中であきらめ、最後まで努力できない児童が多くみられた。

平成26年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国と比べ上位層がやや少なく、中位層がやや多く分布している。

平均正答率（本校 76.3 / 泉佐野市 75.9 / 大阪府 77.3 / 全国 78.1）

「B区分問題」

- ・平均正答数の全体的な分布状況は全国とほぼ同じであるが、全国に比べるとやや低位層に偏りがある。

平均正答率（本校 54.8 / 泉佐野市 55.6 / 大阪府 56.3 / 全国 58.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率 / 全国正答率）

算数A	特徴がみられた設問
<p>【数と計算】</p> <p>○小数第1位までの減法の計算は概ねできている。</p> <p>1 (3) $9 - 0.8$ を計算する。 (88.2/83.8)</p> <p>○異分母の分数の加法の計算は概ねできている。</p> <p>1 (6) $1 \frac{1}{3} + 2 \frac{2}{5}$ を計算する。 (95.3/90.6)</p> <p>【量と測定】</p> <p>○二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付けることは概ねできている。</p> <p>4 (1) 8 m^3 に16人いるAの部屋の様子を表している図を選ぶ。(85.9/82.8)</p>	<p>○体積の単位（1 m^3）と測定について理解することに課題がある。</p> <p>5 (2) 1 m^3 の立方体を基に、示された直方体の体積を求める。(70.6/81.1)</p> <p>【図形】</p> <p>○円周の長さを、直径の長さを用いて求めることに課題がある。</p> <p>5 (1) 直径6 cmの円の円周を求める式と答えを書く。(77.6/83.9)</p> <p>○作図に用いられている図形の約束や性質を理解することに課題がある。</p> <p>6 コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ。 (40.0/52.0)</p>

算数B	特徴がみられた設問
<p>【量と測定】</p> <p>○示された場面から基礎量と比較量を捉え、倍を求めること、また全体と部分の関係を示す為に用いるグラフを選択することも全国平均よりおよそ5ポイント以上の結果が見られた。</p> <p>2 (1) 6・7月の水の使用量 1500 m^3 は、プールに入れる水の量 250 m^3 の何倍かを求める式と答えを書く。(87.1/82.5)</p> <p>2 (3) 6・7月の水の使用量が、1年間の水の使用量の $\frac{1}{4}$ より多いことを説明するために用いる適当なグラフを選ぶ。 (67.1/61.5)</p> <p>○10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を示している図を選択することが全国平均より大幅に下回っていた。</p> <p>3 (2) 40人分のご飯を分けるとき10人分の目安を正しく表している図を選ぶ。 (41.2/56.7)</p> <p>○繰り返されるリズムの規則性を見だし、それを基に小節数を求めることが全国平均より大幅に下回っていた。</p> <p>4 (1) Aのリズムを3回目に演奏するのは何小節か書く。(45.9/62.2)</p>	<p>○示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述することにおいて、全国平均と同様に正答率の低さが見られた。</p> <p>3 (3) 示された分け方で、スープを分けたとき、残りの30人にスープを分けることが出来るかを選び、そのわけを書く。(29.4/30.6)</p> <p>○示された情報を整理し、筋道をたてて考えて、小数倍の長さの求め方を記述することにおいて全国平均と同様に正答率の低さが見られた。</p> <p>5 (3) 妹の身長をもとに妹の使いやすい箸の長さの求め方と、答えを書く。(32.9/33.0)</p> <p>○示された情報を基に条件に合う時間を求めることにおいて全国平均と同様に正答率の低さが見られた。</p> <p>3 (1) 昨年の給食時間を見直したときに今年は、準備の時間を何分間にすればよいか書く。</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか	71.8	66.1	◇	+5.7
算数の勉強は大切だと思いますか	87.1	92.3	◇	5.2
算数の授業の内容はよく分かりますか	82.4	79.6		+2.8
算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思いますか	69.5	77.3	◇	7.8
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	76.4	78.1		1.7
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	67.0	66.3		+0.7
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	88.3	89.0		0.7
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	74.1	79.4	◇	5.3
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	83.5	81.3		+2.2
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	84.7	83.4		+1.3

【考察】

- 正答数の分布については、全国と大きな差はないが、全国と比べて上位層がやや少ない。
算数科の4つの領域のうち、「数と計算」「量と測定」「数量関係」については全国平均と比べて、大きな差はないが、「図形」については差が見られる。(66.2/71.8)
- 式が与えられている計算問題については、正答率が全て80%を超えている。また、全国平均を上回っている項目あり、全体を通じて定着が図られている。その反面、自ら問題を読み解き、式を立てる問題については課題がある。
- 朝の学習等で計算問題の反復を行っていることで、基礎計算の力はある程度ついてきている。今後は図形や文章問題についても取り組む必要があるのではないかとと思われる。
- 全般的に無答率が全国平均より低く、困難な問題にもチャレンジする姿勢が見られた。
- 図を用いた説明などに弱さが見られた。
- 題意をきちんと読み取れず、解答の条件が不十分なものも見られた。(問題の読みとり)
- 算数の勉強が好きな児童が多く、授業内容を理解している児童も全国より上回っている。また、難しい問題もあきらめないで解こうとしている。しかし、新しい問題にであうと、解いてみたいという意欲が低い。

平成26年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

本校の子どもたちの意識調査を、質問に対して4択（62問）で選ぶものは、選択肢1、2と3、4はそれぞれ同じ傾向と捉える。（例えば、1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない）

また、それ以外の質問（12問）は特徴的な事柄を取り出し、それらを全国と比較している。

下記の表には全国と比較して5%以上差のあるものの中で、特徴的な項目を列挙した。さらに、下線部に関しては10%以上の差のあるものを示している。

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校 回答率 / 全国 回答率 >
【家庭生活の様子】	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム、メールやインターネット・テレビ・ビデオの時間が長い。 ・朝食を毎日食べている割合が全国と比べて少ない。 ・就寝時刻が定まっていない。 ・地域行事に参加しない事が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝食を毎日食べていますか。 <88.2/96.0> ○毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。 <70.6/79.2> ○今済んでいる地域の行事に参加していますか。 <56.4/68.0> ○地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。 <31.8/42.5> ○普段、一日どれくらいの時間、ゲームをしますか。（3時間以上） <29.4/17.0> ○普段、一日どれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。（2時間以上） <15.3/8.7>
【家庭学習の様子】	<ul style="list-style-type: none"> ・家で宿題・予習・復習がきちんとできていない。 ・課外の学習は多めにできている。 ・塾通いは全国よりも多い。 ・相手の話を最後まで聞ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の授業時間以外に、普段一日どれくらいの時間、読書をしますか。（30分以上） <28.2/38.2> ○家で、学校の宿題をしていますか <97.6/96.5> ○家で、学校の授業の予習をしていますか。 <33.0/43.2> ○家で、学校の授業の復習をしていますか。 <34.2/54.0>
【学校での学習の様子】	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に行くことを楽しいと思っている。 ・先生に認められていると感じている。 ・みんなで協力して何かをやり遂げることが好きである。 ・難しいことに挑戦する事が苦手である。 ・いじめは悪い事だと感じている。 ・ニュースを見ないので社会の事への関心が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校に行くのは楽しいと思いますか <88.3/86.6> ○自分には、よいところがあると思いますか。 <65.9/76.1> ○学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。 <90.6/86.5> ○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。 <82.3/79.7> ○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。 <97.6/96.4> ○人の役に立つ人間になりたいと思いますか。 <88.2/94.0> ○5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか。 <87.0/83.7>

本校の取組み

◎これまでの取組み

【自ら考え共に学び合う体験的な活動（授業）を通して、コミュニケーション豊かにつながる子どもの育成を目指すための取組み】

（１）言語活動・コミュニケーション活動の充実

- ① 国語科をはじめ、全ての授業で「聴く」「表現する」活動を工夫し、相手の思いや考えを能動的に理解しようとする、自分の思いや考えをわかりやすく伝えようとする態度を育む。
 - ・読み聴かせ活動　・聴き方「あいうえお」　・ペア学習及びグループワーク
 - ・話し方「かきくけこ」　・伝わりやすい書き方ワーク　・プレゼンテーション　等
- ② 人と関わる楽しさを感じることや、他者との出会いを積極的に取り入れる。
 - ・交流活動　・人と関わる体験的な学び　・まなびんぐスクール　等

（２）体験的な学びを通して、信頼感や安心感であふれる集団づくり

- ① 目標に向かって集団活動を企画・運営する。
 - ・共有できるルールづくり　・チームとしての活動づくり　等
- ② 自分を振り返る機会を習慣づける。
 - ・振り返りジャーナルや日記　等
- ③ 本音を語り合え、心情を共有する関係づくり。
 - ・相互に伝え合い聴き合うオープンクエスチョンワーク　等

（３）自力解決の力を育てる生活や授業での学び

- ① 自己選択と自己決定を積み重ねるしかけを組み込む。
- ② 基礎基本の習熟を図ると共に、活用力を高める。
- ③ トラブルの解決のために、全学年がセカンドステップに取り組む。

【基礎基本の定着のための取組み】

- （１）学力向上の一環として、基礎・基本の習熟と活用能力を高めることを目標に、習熟度別指導を中心に取り組む。
- （２）朝学習を充実させ、漢字や計算の力をつける。
- （３）研究授業や校内研修を計画的に行い、積極的な意見交換により個々の授業力向上を目指す。

◎これからの取組み

【基礎基本の定着】

- （１）力だめしプリント等を有効活用し、読み書き計算の取得に力を入れる。
- （２）反復学習による基礎基本の習熟に力を入れる。
- （３）少人数・習熟度別学習を効果的に利用し学力アップにつなげていく。
- （４）読書活動を充実させていく。
- （５）パソコンやICT機器を使用した授業を充実させていく。

【授業改善による授業内容の向上】

- （１）授業力向上のため、研究部を中心として授業改善に取り組む。
- （２）研究授業及び研究討議の内容を充実させ、授業力の向上を目指す。
- （３）集中力の育成に取り組む。

【家庭との連携】

- （１）朝食の重要性、テレビ・ゲームの悪影響を訴え、家庭との連携を深める。
- （２）宿題の出し方について共通理解を深め、家庭の協力を得る。
- （３）学校ホームページを通じて積極的な情報発信に努める。

【落ち着いた学習環境】

- （１）セカンドステップの取組みを続け、感情のコントロールを身につけさせる。
- （２）ふわふわ言葉の取組みを続け、あたたかく落ち着いた学習環境を構築する。
- （３）耐震・改修工事で美しくなった環境を生かし、教室の掲示物等はユニバーサルデザインを意識する。